

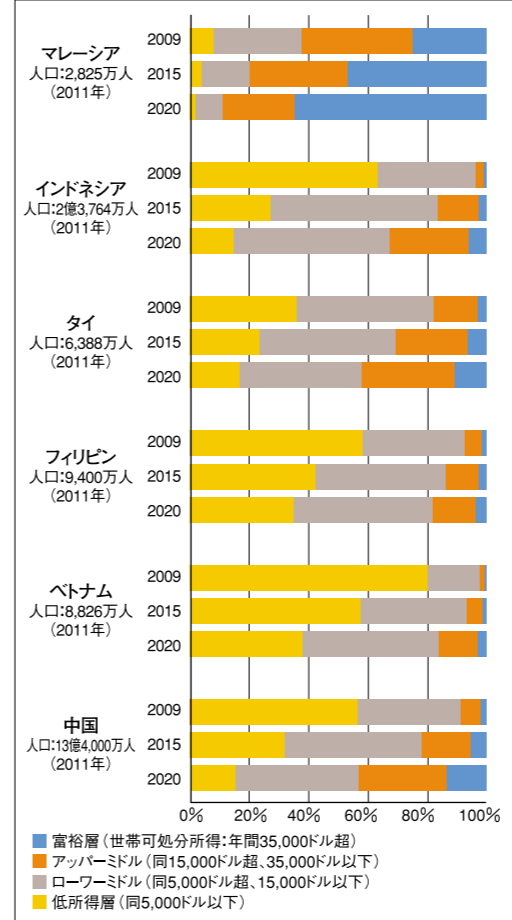


# 特集 東南アジア市場開拓

急速な経済成長に伴い市場も拡大している東南アジア。2015年にはASEAN経済共同体(AEC)の発足が予定されていることから、投資先としてさらにその注目度が増しており、道内企業にとっても大きなビジネスチャンスとなりそうだ。東南アジアでの商機を取り込もうと挑戦する企業を取材した。

写真提供:国際機関日本アセアンセンター

図1 世帯可処分所得の予測(2011年)  
(出所:国際機関日本アセアンセンター)



**生産地から消費地へ 急成長する市場**

日本企業の東南アジア市場進出が活発化している。東南アジア諸国は今、高度経済成長の真っ只中。年収五千ドルを超える「中間層」が急増し(図1)、若者人口が多いことも長期的な市場拡大を期待させる。

今春以降、中国経済の減速や米国の量的緩和策の縮小観測を受け、経済成長のペースが鈍化している現状はあるものの、進出先として依然注目度は高い。

また、二〇一五年には、ASEAN経済共同体(AEC)が実現予定。モノ、サービス、投資、労働者、資本の自由な移動を実現させて海外からより多くの投資を呼び込み、経済成長を後押しする狙いだ。現在は大手企業の進出が目立つが今後このAECを追い風に中小企業の進出も増えるだろう。

**当所の東南アジア 進出支援事業**

進出先として魅力が高まる東南アジアだが、国ごとに宗教・文化・商習慣は大きく異なる。進出には決め細やかな戦略が必要だ。

当所国際部では、企業の海外進出を支援する事業を展開している。中でも昨年度からは東南アジア進出支援に重点を置き、セミナーや勉強会、現地での物産展・商談会などを開催している。それら事業の紹介と東南アジアへの事業展開に取り組む企業を取材した。

## 札幌商工会議所の海外支援事業紹介①

### ミャンマー・タイ

経済ミッション 6/30~7/5開催

民主化とともに経済改革も進み、新たな投資先として注目されるミャンマーと、すでに国際舞台で地位を高めているタイ・バンコク。当所では両国でのビジネスの可能性を探るべく、経済ミッションを実施した。

ミャンマー現地の要人は、近年投資先として注目されてはいるが、国際舞台の経験が浅く、法整備が整っていない『ミャンマーリスク』について注意を促した。一方、バンコクでは現在、失業率が非常に低い水準にあり、進出企業が思うように人手が確保できない状況であるとの話が聞けた。



ミャンマーでは特命大使や日本人商工会議所を訪れ懇話した

## ハラール認証機能性食品でイスラム圏市場開拓を目指す

(株)活里

マレーシアやインドネシアで需要が伸びている日本のハラール認証機能性ドリンクがある。価格は二本で千五百円程度と、現地の物価水準でも高価だが、富裕層を中心に年間四十〜五十万本売れているという。

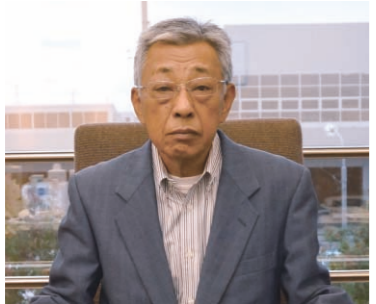
この原料となるサーモン・オバリー・ペプチド(SOP)を製造しているのが機能性食品メーカーの(株)活里だ。SOPとは道産の鮭から採れる筋子の卵巣外皮を酵素分解して抽出したものの。良質なアミノ酸が豊富に含まれている。代表取締役の寺田信行氏は、「世界的な健康ブームを追い風に東南アジア、中東へ販路を拡大したいとSOPのハ

ラル認証を取得しました」と語る。現段階では、イスラム圏へ販売するチャネルがまだ整っていないため、道外の製薬メーカーで栄養ドリンクに加工・輸出されている。

ハラールの認証は、拓殖大学のイスラム研究所に通いつめ、およそ一年がかりで取得した。原料だけでなく、製造工



(株)活里が取得したハラール証明書



寺田信行 代表取締役  
**(株)活里**  
札幌市北区新川西2条1丁目2-35  
TEL: 011-768-1112

## 札幌商工会議所の海外支援事業紹介②

### イスラム圏 「北海道ブランド」海外展開強化セミナー「イスラム圏への「北海道ブランド」展開の可能性を探る!」 7/30開催

世界のイスラム教徒人口はおよそ16億人(2010年時点)と、巨大な市場として期待されるが、イスラム教には厳格な戒律がある。そのひとつが「ハラール」だ。「イスラム圏に進出するには、『ハラール』認証をクリアしなければならない」。当所が開催した「北海道ブランド」海外展開強化セミナーで、マレーシアハラールコーポレーション(株)の代表取締役アクマル・アブ・ハッサン氏が説明した。豚肉やアルコール成分が食品の製造過程に入っていないことを示す『ハラール』。食品以外に化粧品や医薬品、衣類、玩

具など幅広い分野に関連している。認証取得には大変な手間がかかるが、この認証の有無でイスラム圏では取り扱われ方が大きく違ってくる。ハラールを取得していないものは、スーパーの隅の棚に置かれてしまうという。



東南アジア諸国に見られるハラール認証マーク(出所:国際機関日本アセアンセンター)

シンガポールに進出。オフィス街で行列ができるベーカリー店

(有)プルマン・ベーカリー

シンガポールのショッピングアーケード「ミレニアウオーク」に(有)プルマン・ベーカリーの海外一号店がある。落ち着いたデザインと透明感のある店舗構えが目を引く。オフィス街が近いということもあり、朝の出勤の時間帯には行列ができることもあるという。一番人気はカレーパンと栄養価の高い全粒粉入りのパン。「シンガポールでも健康志向が高まり、カロリーを抑えたパンなどが人気になっています」と話すのは代表取締役の立原和臣氏。



プルマン・ベーカリーシンガポール店

同社は一九七八年創業、今年の九月には、手稲区に新店「バンヤードサッポロ」をオープンし、現在は市内で三店舗を構える。「海外へ進出することは、昔からの夢でもありました。海外のマーケットに「挑む」というより「学ばせてもらう」という姿勢です」と語る。

また、立原氏はシンガポールのパン文化について「フランスや韓国などのFC店などが進出し、ローカルからハイクラスの店まで、日本よりも多様なベーカリー店が並ぶ激戦区です」と話す。階級社会で貧富の差が激しい東南アジアでは、どのレベルにターゲットを絞るかを見極めなくてはならない。

味は、できるだけ日本と同じ味を再現するように心がけているという。「シンガポールの食べ物は甘いものが多い。だからといってパンも甘くしてしまつては、日本の味じゃなくなってしまう」。日本の味と、新作のパンも多く並ぶことが人気を呼び、この三年間で大勢のリピーターを生んだ。「おいしいものは世界共通だと実感しています。今後はマレーシアやインドネシアへの出店も考えています」。



立原和臣 代表取締役  
(有)プルマン・ベーカリー  
札幌市西区宮の沢4条3丁目20-20 TEL: 011-666-6001

ソウルフード「札幌ラーメン」を親日国から広めたい

(株)吉山商店

今年三月、台湾にある太平洋そごう

で開催された北海道物産展。期間中、行列が絶えない店があると話題となった。札幌ラーメンの吉山商店だ。現地の平均価格の数倍はする値段であるにも拘らず、物産展史上の記録に残る売り上げを樹立した。代表取締役の関山芳美氏は「海外でここまで反響が大きいとは思っていませんでした」と驚いた。同社は、二〇〇六年開業。今年十月にはエスタのらーめん共和国に出店し、現在市内に三店舗を構える。看板メニューは、みそを焼いて作る「焙煎ごまみそらーめん」。香ばしいみその香



太平洋そごうでの物産展の様子

りが食欲をそそると人気の逸品。

関山氏は現在、三年以内に海外一号店を出店すべく、準備を進めている。視野に入れている国は、モンゴル、台湾、そしてバンコク。海外へ進出する大き

な狙いは、「ソウルフードである札幌ラーメンを親日国から知ってもらいたい」。そのため、何度も現地を訪れ、情報網である人脈を作ってきた。また、「北海道ブランド」の輸出拡大を目指して、当所が昨年実施した「フードチャレンジセミナー」にも参加している。「まずは当店の味を知ってもらいたい」と大前提。日本式のサービスを徹底して、お客さまにも従業員にも喜ばれる店を作りたい」と語る。

味やメニュー展開について、「日本で提供している味では塩辛いと言う声もあります。濃度を下げてしまつては札幌ラーメンでは無くなってしまうので、いかに塩辛さの角を削るか、これが今後の課題です」。

「札幌の食文化を世界へ広めることが第一。利益はそのオマケとして付けてくるものだと考えています。海外でも「札幌ラーメンの定番」と呼ばれるために、地域に根ざした経営を目指します」。



関山芳美 代表取締役社長

(株)吉山商店

札幌市東区東苗穂3条2丁目4-25  
TEL: 011-782-2005



世界一高い天空プールで有名なマリーナ・ベイサンズ

東南アジア進出をフルサポートする新会社を設立

(株)プライム・ストリーム北海道

東南アジア進出をサポートする新会社(株)プライム・ストリーム北海道が今年の八月に設立された。現地でのマー

ケティングから、代行営業、輸出入代行などのサービスを行う。

ITを駆使した物流ソリューションの北海道物流開発(株)と雑穀卸業の(株)山本忠信商店(河東郡音更町)が中心となって道内銀行三行の出資を受け設立した。業務部の木村美里氏は、「中小企業が実際に販路を拡大するためには輸送や営業活動においてたくさんの課題があります。その課題解決に向け、より近い距離でサポートできるように設立しました」と語る。

輸出入のプロである北海道物流開発(株)と、農家や加工業者と深いつなが

札幌商工会議所の海外支援事業紹介④

バンコク 北海道フェアinバンコク 10/16~29開催

ヘルシーな日本食のニーズが高まっているバンコク。このチャンスに、北海道ブランドを売り込もうと、物産展を開催した。

タイで最初に開業したという老舗デパート「セントラル」で、2週間にわたりフェアを開催。道内企業19社80アイテムが並び、豆菓子やアップルパイ、円山動物園ラーメンなどに人気集中した。

主催:北海道、札幌市、北海道貿易物産振興会、札幌商工会議所、アジアにおける札幌の物産と観光フェア実行委員会



連日多くの人で大盛況だった物産展

りを持つ(株)山本忠信商店の両社の強みを生かし、北海道・東南アジアの物流の流れを作り出すことを目指している。

同社のシンガポールの拠点であるプライム・ストリームアジアでは、日本人スタッフが駐在し、営業活動を行っている。設立間もない同社だが、すでにシンガポールのリゾートホテル「マリーナ・ベイサンズ」と直接契約を結び、道産水産物の供給に向け交渉を続けている。

代表取締役の山本英明氏は、「シンガポールは、ほかの東南アジア諸国に比べ、進出しやすい分、価格競争に陥りやすい傾向にあります。そのためにブランドینگと、商品の良さを的確にどう伝えるかが今後の課題です」と語る。

東南アジアに「北海道ファン」を増やすために、「北海道の生産者と東南アジアのマーケットを商流と物流でつなぎ、北海道の輸出拡大に貢献させていただきます」(木村氏)。



(株)プライム・ストリーム北海道

河東郡音更町木野西通7丁目3番地  
TEL: 0155-30-1733  
<札幌支店>  
札幌市西区発寒6条9丁目1-10  
TEL: 011-671-4788